

RPICの渡辺治夫さんの計報に接し、言葉もありません。9月号の彼の寄稿を読み返し、その鋭い視点を改めて学ばせていただきました。合掌。

今月号は小生の担当(400字)です。9月号に引き続いて会員増強への御協力をお願いすることになります。「我がクラブを町おこしの中心クラブになっていただくためにクラブのビジョン声明を…」と前号で述べました。過去様々な世界のロータリーリーダー達が、“ロータリー運動がたとえ世界的規模に拡がろうとも、原点はクラブレベルでは地域への奉仕活動です”と、説いています。

私達は、自分達の企業が地域の皆さんのおかげで成り立っていることを知っていますから、地域が元気になるための努力を惜しんではいません。これからは、その方策をクラブとして考え実施していくことが必要となると思います。それをビジョンとして明確化させ、継続して取組みを続けていきたいと考えますが…そんな貴兄の姿やクラブを地域の人々が見ています。やがては一緒に活動する仲間に加わってくれると信じています。

そんなことを夢見ている綿秋です。

国際ロータリー理事 斎藤直美

新会員のオリエンテーションやセミナーは重要

早いもので、今年も余すところ1ヶ月となりました。ロータリー年度では12月末と年度末の6月がクラブ会長・幹事、会員増強委員長にとって、一番心を悩ますシーズンです。

ガバナー年度、2750地区では4,900名を超え5,000名が見えたと思った瞬間があり、楽しみに年度末の会員数を心待ちにしていたが、結果は想像以上に厳しいもので、5,000名はおろか4,900名をも割り込みました。純増数は80名前後に留まりました。日本全体では、6月に700名の方が会員となられましたが、なんと2,800名の方が一ヶ月で退会されました。会員増強に各クラブ、各地区が努力されている一方で、ロータリーの本来の楽しみを理解する前に多くの方が退会されることが散見されます。

クラブにおいても地区においても、新会員オリエンテーションや新会員セミナーの重要性を一層理解して頂きたいと思えます。また、ロータリークラブに入った大きな理由である業種を超えた交流をクラブは無論、グループ、地区、地区外ロータリアンとの交流の場を多くの会員が持てるよう、配慮して頂きたいと考えます。ロータリーでは様々な活動に、実際に参加して行動してこそ、ロータリー本来の楽しみを見出すことが出来ると思えます。

リーダーの方々には是非そのことをクラブ会員に伝えて頂き、クラブの活性化、クラブ基盤の強化に繋げていただきたく思います。

第2ゾーン ロータリーコーディネーター補佐 水野 功



行動をもって「公共イメージと認知度の向上」を推進しましょう

イアンH. S. ライズリーRI会長は、「ロータリーとは何ですか?」という問いに「自らの「行動」によって答えましょう」と述べました。ロータリーの「公共イメージと認知度の向上」への取り組みにおいても、「ロータリアンの行動する姿」を見てもらうのが一番効果的であると実感しております。

私の所属する第2780地区横須賀ロータリークラブ(神奈川県)では、10年前より毎年「10,000メートルブルームナードクリーン作戦」を開催しています。地域の清掃ボランティア活動ですが、今年は3月12日の日曜日に実施。横須賀市に拠点を置く6つのロータリークラブ、ローターアクト、ボーイスカウト、6高校から総勢621名の参加がございました。この621名が6つの出発点に別れて一斉にスタート、清掃活動をしながら市民と触れ合いながらゴール地点である横須賀港湾岸緑地である「海辺つり公園」を目指しました。清掃活動をする私達の行動を、昇り旗のロータリーの文字を、キャップについたロータリーのロゴをいったい、何千人、何万人の市民が見たことでしよう。

私自身もこの活動をしていて、多くの市民の方と触れ合ったり、挨拶をしたり、そして人の目に触れている事を実感致します。人間の五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)の内、最も情報摂取量が多いのは全体の87%を占める「視覚」なのです。「ロレックス」は世界的一流の時計ブランドですが、「ロレックス」というと皆様はすぐに「腕時計」をイメージされるでしょう。

何故でしょうか? 腕時計は「行動」する人の腕にあるからです。つまり「行動性」があるので、他人の目に触れる機会が多いのです。一方、壁掛け時計は自宅の壁に固定されているため、他人の目に触れる機会が少ないのです。私達は行動する事によって、そしてその姿をより多くの人に見てもらふ事によって「公共イメージと認知度の向上」を推進して参りたいと存じます。

第2ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター 渡辺 治夫

渡辺 治夫 第二ゾーンロータリー公共イメージコーディネーターが十月二十六日ご逝去されました。ご報告申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り致します。右の記事は九月号の再掲載です。尚、RPICのお問い合わせは当面は第1ゾーン/RPIC鈴木秀憲、又は第3ゾーンRPIC横山守雄にお願いいたします。